幻のエーゲ海の旅
～されど、前向きに～

アテネの象徴、パルテノン神殿（37年前）

ギリシャは訪れたいあこがれの国の一つ、特にエーゲ海に惹（ひ）かれる。

今から三十七年前の昭和四十九年、聖地エルサレム巡礼からの帰国途中、首都アテネに立ち寄り、半日観光をした。しかしアクロポリス遺跡を少し見たぐらいで、これではギリシャ旅行にはならない。

今は財政危機に苦しむ国だが、ギリシャには夢がある。神話の国、古代ギリシャを物語るアクロポリス遺跡など十九カ所の世界遺産、二千五百を超える個性豊かな島々が点在するエーゲ海、ギリシャは聖書にも登場する。

使徒パウロはアテネからコリントまで足をのばし「コリントの信徒への手紙」などの中にギリシャが登場する。また新約聖書の一番最後にある「ヨハネの黙示録」はエーゲ海の東端、トルコとの国境に近いパトモス島でヨハネが書いたものである。

この島には聖ヨハネを記念して一〇八八年に「聖ヨハネ修道院」が建てられ、世界遺産に登録されている。

パトモス島のすぐ近くにあるコス島。昨年、ベトナムに一緒に行ったNGO・IMAYA代表の岩本功医師がぜひ行きたいという島で、医学の父・ヒポクラテスの生誕地だ。このほかクレタ島などエーゲ海は魅力にあふれたところだ。

先日、海外ツアーの折り込み広告に「紺碧のエーゲ海クルーズ・ギリシャ紀行六日間」を見つけた。出発は十月九日。

妻と話し合い、早速申し込んだ。三月末に台湾周遊に出かける予定だったが、東日本大震災が発生して、こんな時に自分たちだけが海外旅行を楽しむのはいかがなものかと中止。夏の終わりに家族で韓国・釜山に行ったが、本格的な旅は久しぶりである。

三年前に妻が脳幹梗塞を患い、左半身にまひが残って今もつえを使って歩く。それでもフィリピン、ベトナムなど東南アジアには一緒に旅をしたが、病後、ヨーロッパなど遠距離はこの三年間、一度も行っていない。

今回のギリシャの旅は六日間と比較的短く、エーゲ海クルーズなら歩くことも少ない。飛行機も中東のドーハ経由なので、ヨーロッパ直行よりも大分、楽である。

早速、ギリシャのガイドブックを買い求め、妻も散歩時間を少しずつ長くして準備にとりかかる。エーゲ海クルーズに備え、青海島巡りまでしたのだが、何と私の方が出発一カ月前に体調を崩した。

四年前にもヨーロッパ旅行の直前に肺炎で入院して旅行を中止した。それほど大事とも思っていなかったが、その後、畏敬の先輩、シナリオライターの東條正年氏が肺炎で亡くなられた。もう病気を軽く考える年齢ではない。

表面的には元気に見えてもペースメーカーを埋め込み、一級障害者。その上、高血圧、糖尿病、さらに最近、リウマチの疑いがあり、新薬を飲み始めた。体調を崩したのもそのせいかもしれない。この新薬は副作用で免疫を低下させるらしい。

とにかく主治医の忠告通りギリシャ旅行は中止した。予定通りなら、きょう十三日はコリントを旅しているのだが…。いや、後ろを振り向くのは止めよう。

旧約聖書「コヘレトの言葉」に「すべてには時がある」とある。幻に終わったエーゲ海の旅も、その時ではなかったのだ。また訪れる時があることを祈ろう。これからはもっと慎重に、されど前向きに。

あすから近くの韓国・全羅南道に出かけるので、巡礼の道も次回から韓国シリーズ。今はその時なのだ。

ガイドブックも買い求めて準備したのだが…